

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	横浜市立戸部小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	地域と関わる「学級総合」で目指す子どもの本気の課題設定

〈活動・研究の意義および活動報告〉

今年度は研究テーマとして『地域と関わる「学級総合」で目指す子どもの本気の課題設定』と設定し、年間を通して、地域との関わりの中なかで「～したい」「～しなければならない」という「必要感」や「切実感」をもった単元・授業にしていくことで、地域への愛着や地域への理解が深まっていくことを目指し、研究を進めてきた。はじめに「地域との関わり」について述べていく。以下は、今年度の各学級の取組である。

- 3-1 「観光ガイドを通じた地域の魅力発信」
- 3-2 「ネイチャーゲームを通じた地域の公園（掃部山公園）の魅力発信」
- 4-1 「地域の和菓子屋さん連携した和菓子の創作」
- 4-2 「地域の身近なものを使った草木染めの追究」
- 5-1 「地域に住み続けたいくなる写真展の開催」
- 5-2 「地域の魅力を感じられる健康的なフォトロゲイニングの追究」
- 6-1 「地域の魅力を込めたカードゲームの制作」
- 6-2 「地域の健康課題に向き合った体操の創作」

「地域との関わり」について上記の取組のように異なる単元を進めながらも、地域との関わりを大切にしていることに変わりはないが、中学年と高学年によって、地域との関わり方に違い（発達段階）がある。本校では、以下のように整理した。

- 中学年：戸部のまちにある身近で具体的な「もの」「こと」のもつ意味や価値と、その対象を通して関わる戸部のまちの「ひと」の考えや行動等
- 高学年：戸部のまちの「ひと」との関わりを通して見つめ直す、身近な「もの」「こと」のもつ意義や問題と、その発展や解決に向けた行動・取組等

中学年においては、身近な材（まちや公園、和菓子、草木染め等）についてとことん追究を進めながら、まちを支える人々の考えや行動にふれていった。一方で、高学年はまちに尽力する人々（自治会長などのまちに住んでいる方や区役所・市役所の職員等）との関わりの中から自分たちにできること・すべきことを見つめ直していった。このように発達段階に合わせてまちとの関わり方を整理することで、子どもにとって必然性のあるまちとの関りであり、学びとなっていった。

次に、「本気の課題設定」とは何か、子どもの姿を目指すために必要な教師の手立てとは何かを述べていく。

本気の課題設定とは、「～したい!」「～しなければならない!」と、子どもが必要感や切実感をもって取り組むことのできる課題を設定することである。そのためには、子どもが「何のために・何をするのか」を自覚する必要がある。「何のために」とは、「真に意味や価値のある、よりよい「～したい!」という思い・願い(=夢)である、総合での単元の課題や、夢を実現するために、今まさに目の前にたちはだかっている小単元の課題や本時の課題を目的にすることである。「何をする」とは、小単元の課題や本時の課題をどのように解決していくか構想を立てたり、調整したりしていくことである。

これら（何のために・何をする）を子どもが自覚し、そこに必要感や切実感をもって探究を進められるように、

教師がどのような取組をしていけばよいかを明らかにする必要があった。

「本気の課題設定」をするために、「①何のために（単元や小単元の課題・一時間の課題）」「②何を（課題を解決するための構想や調整）」を自覚している子どもの姿を目指す子どもの姿として整理し、それを実現するための具体的な教師の取組を設定した。

<①何のために>

★中学年

生活や学習を見つめ直し、興味・関心のあることから体験活動を通して活動の価値を見だし、自分たちの力で成し遂げたい目的（=夢）をもつ姿。

→□自分たちの力で成し遂げたい目的（=夢）をもてるように、子どもたちが興味・関心のあることを十分に体験する機会を設けながら、関わる相手（専門家や地域の方）や活動の価値を具体化していく。

★高学年

戸部のまちの問題等を見つめ直し、戸部のまちにとって意味や価値があると考えられる目的（=夢）を見出し、その目的や、目的のためにすべきことが、自分たちにとっての本当の意味での「～したい」（切実感・必要感）となる姿。

→□戸部のまちの実社会との関わりの中で、切実感・必要感のある「～したい」が生まれるように、年間を通して戸部のまちの課題を解決しようと熱心に取り組んでいる人（区役所・自治会・町内会等）と関わる機会を設ける。

<②何を>

★中学年 夢の実現に向けて、大まかな見通しをもって解決すべき課題を設定し、そのために必要なものや取組の順番を考えたり、課題に対するゴール（何ができたり、何が分かたりすればよいか）をイメージしたりする姿。

★高学年 夢の実現に向けて、見通しをもって解決すべき課題を設定し、予想や仮説を立て、必要なもの・ことを具体的に順序立てて構想を立てたり、課題に対するゴール（何ができたり、何が分かたりすればよいか）をイメージしたりする姿。

→□単元や小単元・一時間の活動を具体的に順序立てて構想を立てたり、課題に対するゴールをイメージしたりすることができるように、単元や小単元・一時間の初めや終わりに、課題とゴール、ゴールに至るまでの見通しを子どもと確認する時間を設けたり、それらを掲示や板書で明記して、学習を進めながら調整（修正や具体化）したりする。

□目的（=夢）に立ち返りながら、立てた構想の順序を入れ替えたり組み直したりすることができるように、夢や目的を確認する声掛けや、目的意識を明確にした見通しをもつ姿への価値付け、次の具体的な活動を確認するための声掛けを行う。

□課題やゴールをより具体的に設定し直したり捉え直したりすることができるように、専門家の意見やアンケートなど客観的な評価や視点を得る機会を設ける。

このように、目指す子どもの姿と教師の取組を明確に設定することで、授業研究を進めながら目の前の子どもの姿や教師の振る舞いと常に比較しながら検討を進めることで、授業改善を図ることができた。

ここまで「地域との関わり」と「本気の課題設定」、この2つに焦点を当て、研究の成果を述べてきた。来年度も継続し、子どもたちが授業内だけでなく、これからも生活してくこの地域を支える大切な一人が自分であるという自覚をもてるようにしていく。